横浜市会第3回定例会

平成15年9月12日より26日まで、横浜市会第3回定例会が開催されました。35件の議案が上程され、活発な審議が行われました。

議案関連質問

9月12日に行われた本会議では、**榊原泰子議員**（西区）が質問に立ち、提案された議案に関連し、8項目にわたり中田市長に質問しました。

榊原泰子議員

港湾病院再整備

整備が進められている新港湾病院の、経営を委託する管理者選定に関する議案が上程されました。

榊原議員は、管理者の選定条件と選定過程を市民に明らかにし、公正な選定の実施を求め、市長からは、公開して透明性の高い選考をするとの答弁がありました。

また、高い医療水準が求められる中で、特に先進的なアレルギー疾患対策は極めて重要と、アレルギー学会の認定医や認定専門医などの配置を訴えました。さらに、市内に整備される免疫アレルギー科学総合研究センターに併設される市大先端医科学研究センターやアレルギーの拠点病院である国立相模原病院などと密接な連携をとり最新の治療を行うほか、地域の医療機関との連携を図るセンターの機能を持つべきと強く主張しました。

工事が進む新港湾病院

最先端のアレルギー疾患診療を！

市長からは、認定医の配置や、関連する研究機関との連携も管理者の指定条件に定め、地域医療機関との協力も図り、質の向上を目指すとの考えが示されました。

さらに、小児科救急、精神科救急、障害児・者への対応など、不採算の傾向にある政策的医療の実施も不可欠と主張し、これらも指定条件に定めることにより、十分確保されることが明らかとなりました。

平成16年4月開所予定の
免疫・アレルギー科学総合研究センター

ディーゼル車通行規制

本年10月1日からの「ディーゼル車排出ガス規制」について、粒子状物質減少装置（DPF）を既に発注していても、装置が間に合わない事態に「救済策を！」と訴えました。

中田市長から、「DPFの発注等を行った『確認証明書』を携帯すれば、年末まで通行できるよう対策を設ける」との答弁がありました。

横浜産業サポーター事業

現在、失業中の人を対象に財務経理・外国語・情報技術等、企業が求める意欲ある人材を派遣する事業を実施します。（今年10月～来年3月）ハローワーク等を通じて募集します。

一般質問

9月18日、**福島直子議員**（中区）が11項目にわたり、中田市長に一般質問を行いました。

福島直子議員

芸術文化都市・横浜を目指して

来年が第2回の開催年となるにも関わらず会場が未定の横浜トリエンナーレ（国際現代美術展）の取り組みについて質し、現在、2005年開催に向け主催者と交渉中であることが明らかとなりました。また、歴史的な節目を迎える2004年から2009年を、国際コンベンション都市・横浜を世界にアピールする絶好の機会とすべきと訴えました。市長からは、開港150周年の重要性は認識しており、積極的に取り組みたいと答弁がありました。

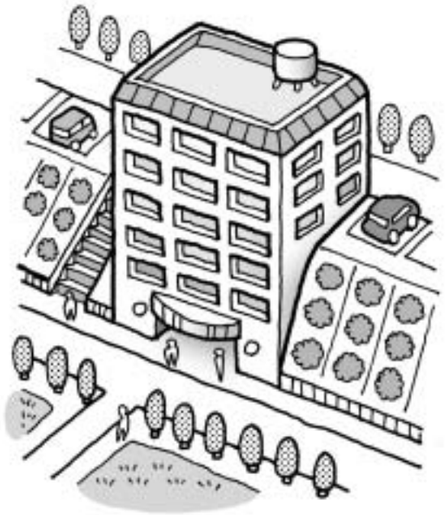
2004年 日米和親条約締結150年

2009年 市制120周年 開港150周年

地下室マンション ―実効性あるルールづくりを―

中区本牧満坂のマンション建設を例にあげ、地下室マンション建設に関する実効性あるルールづくりを急ぐよう要請しました。

これに対し市長は、有識者委員会を立ち上げ、条例制定を含む様々な手段を検討中であり、年度内の発表を目指しているとの答弁がありました。



医療相談体制の充実で 安全・安心の医療を

診療内容や医療事故などは、どこに相談してよいかわかりづらいと、医療相談体制の充実を訴えました。市長は、市の医師会、歯科医師会、病院協会や医療関係団体とも協議し、相談窓口の明確化と充実を図りたいと述べました。

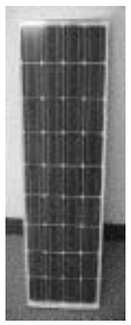
安全・安心のまちづくりを強化

犯罪が増加するなかで、防犯体制の強化を主張しました。また、空き交番を利用した市の事業や、公用車による防犯パトロールの実施などを提案しました。

市長からは、参考になる提案であり市の中心部で実施する「安全・安心まちづくりパトロール」の結果を見ながら検討してゆくとの回答がありました。

地球温暖化防止 ―環境教育の推進―

地球温暖化防止対策を進めるには、市民、事業者の意識改革が重要であり、中でも将来を担う子どもたちの環境教育が必要と主張しました。それにより小中学校の希望校10校にソーラー発電の入門キットを配付し、児童生徒の主体的研究の模様を記録して、後日テレビ放映することにより、広く市民啓発に役立てるとの計画が明らかになりました。



太陽電池